

令和7年度学校評価表

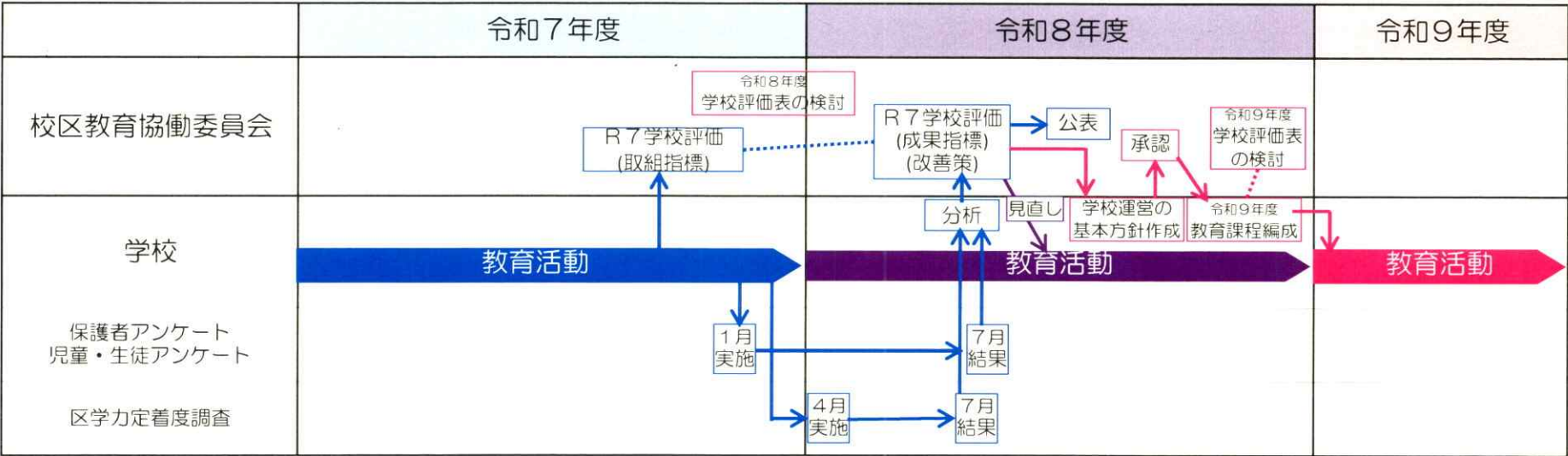
品川区立城南第二小学校 校長 三浦 一輝
城南第二小学校校区教育協働委員会 委員長 今泉 良男

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 学力に関すること

重点目標		○児童一人一人の学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を図る。		
評価指標	最上段:成果指標 2段目以降:取組指標	最上段:成果指標の達成状況の説明 2段目以降:取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	【区学力定着度調査】 正答率を70%以上にする。 学力調査結果の分析に基づいた授業改善を実施する。	国語・算数・社会では全学年において、英語は6学年が正答70%以上であった。(理科は4,5,6年において下回った) 2学期始めの職員会議で、各教科の担当がテストの結果分析と改善点を提示し、改善の視点に基づいた授業を、管理職の授業観察時に行った。	B B	【課題】 ○特に理科の正答率を上げることが課題である。 【改善策】 理科研修会や指導教諭模範授業参観などを行い、授業改善に生かす。
②	【ワークテスト】 すべての学級で平均正答率を80%以上にする。 「補習教室」(品川地域未来塾)を実施し、学力定着を図る。 「ICT活用系統表」「情報モラル年間計画」を実施する。	すべての学級において、平均正答率が80%以上を達成した。 学習の未定着児童に対して個別支援を行うことができた。 全教員がICTスキル表を活用し、新しく配備されたミライタッチを効果的に使用して授業を行うことができた。	A A A	【課題】 ○平均正答率は80%は達成したが、学級や単元によって理解の定着に差が見られる。 ○学力テストの結果分析が十分に授業改善や指導方法の見直しにつながらない場合があった。 【改善策】 ○ワークテストの結果を学年・教科ごとに分析し、課題となる設問や単元を共有する。 ○分析結果を基に、指導方法や補充問題の工夫など、授業改善につなげていく。
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		○自他を大切にし、思いやりの心を育てる。		
評価指標	最上段: 成果指標 2段目以降: 取組指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明 2段目以降: 取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	児童アンケートで、80%以上が「学校のルールを守って生活している」と回答する。	98%以上が「学校のルールを守って生活している」と回答した。	A	【課題】 ○教員によって違いのある生活指導にならないよう組織的に指導していく必要がある。 【改善策】○来年の校内研究では、授業スキルだけでなく、生活指導や人権感覚といった細かな部分の指導を組織的に行うために必要なことについて共有していく。
	生活指導上の課題は毎週校内で共有し、組織的に指導を行う。	全体で共通理解をするべき案件については、適宜生活指導夕会で共有した。	A	
②	児童アンケートで、80%以上が「相手の気持ちを考えた言動をしている」と回答する。	94%以上が「相手の気持ちを考えた言動をしている」と回答	A	【課題】 ○縦割り班の活動は、指導面で6年生の負担が大きくなってしまった。 【改善案】 ○各クラスの担当が、適宜6年児童の指導を行えるようにする。 ○6年生児童は、同じクラスでの班編成とし、たてわり班の事前計画が立てやすいようにする。
	思いやりや責任感・主体性を伸ばすための異学年交流を実施する。	縦割り活動で、異学年交流を充実させることができた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○運動好きの児童を育て、体力向上・健康増進を図る。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	【児童アンケート】 80%以上が「体を動かすことが好き」と回答する。	1学期は91.1%、2学期は92.4%の全校児童が好きと回答した。	A	【課題】 ○児童の運動への関心は高かったが、体力テストの記録向上との相関がなかった。 【改善】 ○引き続き運動に親しみつつ、体力向上も図っていけるようにする。様々な運動に親しみながら運動技能を高めていけるような運動の場の設定を行っていく。
	① 児童の運動への興味や意欲を高める取組、運動の習慣化を図る工夫を行い、体力・健康の維持増進を図る。（「城二オリンピック」等の開催）	運動行事委員会から、城二オリンピックの活動案が、体力向上担当から跳躍力を高める活動案が示され、取組が推進されてきた。	A	
②	【体力テスト】 跳躍力を15%以上向上させる。	男子は16%、女子は15%の記録向上が見られた。	A	【課題】 ○ワンミニッツエクササイズの実施はできているが、取組結果の評価が曖昧であった。 【改善】 ○授業の中に慣れの運動として取り入れるなど、取組の成果が分かるような指導の仕方を意識して行っていく。
	② ワンミニッツエクササイズの実施。	運動行事委員会から、体育科の年間単元計画に合わせた授業につながるワンミニッツエクササイズの提示を行った。	B	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○いじめの未然防止、早期発見・早期対応を実現する。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	児童アンケートで、80%以上が「友達とのトラブルについて、先生は話を聞いてくれる」と回答する。	96%以上が「友達とのトラブルについて、先生は話を聞いてくれる」と回答した。	A	【課題】 ○いじめDアンケートの実施後、聞き取りはしっかりと行っていたが、判断まで確実に終わらせていない学級があった。 【改善策】 ○いじめDアンケートなどの実施日を月予定表に掲載し、確実に実施していく。また、その後のアンケート→学年主任へ報告→聞き取り→記録→生活指導主任への報告をシステム化し、確実に伝えるようにする。 ○学年主任が学年の聞き取り状況を確認した後、学年でいじめの認定判断をする。Teamsで、全学級が判断まで完了したことをDアンケート担当に伝えるシステムにする。
	児童の様子や各種アンケート調査を基に児童のトラブルを把握し、適切な対応を行う。	各種アンケートなどの結果を受けて、いじめにつながる案件については、重大事態につながる前に未然に組織的に対応することができた。	A	
②	児童アンケートで、80%以上が「友達に悪口や暴力など、いやな思いをさせないで生活している。」と回答する。	93%以上が「友達に悪口や暴力など、いやな思いをさせないで生活している。」と回答	A	【課題】 ○いじめの認知に教員間で個人差があった。 【改善策】 ○年3回のいじめ防止研修や生活指導夕会を通して、いじめの定義を具体的に伝え、いじめの芽が小さいうちに組織的に対応できるようにしていく。
	いじめ防止対策委員会を定期開催し、組織的対応の推進を図る。	いじめ防止対策委員会(校内委員会)で、組織的に対応する必要がある案件について取り上げ、いじめの被害が大きくなる前に対応することができた。 各種アンケートからも必要な情報が吸い上げられるよう組織化した。	A	